

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1193300124		
法人名	株式会社あしたば		
事業所名	グループホーム明日葉		
所在地	埼玉県東松山市高坂1091-1		
自己評価作成日	平成28年2月8日	評価結果市町村受理日	平成28年5月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/1_1/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成28年3月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

東武東上線高坂駅東口から徒歩10分と交通の便に優れている。また、大型のショッピングモールがオープンしたことにより、日常の買物や食事を兼ねた外出など、利便性が高い。日中の状況に応じて、入居者さんのレベルに合わせた個別の外出支援や通院介助を行なっている。庭を広く取ってウッドデッキを設置し、いつでも外気を感じることが出来るようになっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 一人ひとりの利用者の個性性を最優先に考えて支援していく方向性が管理者と職員とで共有されている。そのため毎日の生活に根ざした自立支援方法が工夫され利用者の望む生活に近づけるようにされている。
- ご家族のアンケートでも、「利用者や家族のことをよく理解してもらっている」、「生活の様子・課題を定期的にきちんと報告してくれる」、「対応について一緒に考え行動してくれるので安心できる」とのコメントが寄せられ、すべての家族から高い評価が得られていることから信頼関係の深さが伺える。
- 目標達成計画の達成状況については、身体拘束廃止に向けた計画的な研修やミーティングが実施され、日中の施設解除が図られたことなどから、目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各スタッフが『ケアにあたるうえで大切にしていること』を挙げ、それを集約し理念としている。また、きちんと浸透・振り返りが出来るように、毎朝、全員で唱和を行なっている。	住み慣れた地域での暮らしを支えるために積極的に地域との交流を図る努力をされている。理念を掲げるだけでなく、どのように実践できているかを振り返ることで日々の介護に活かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で開催されるお祭りに参加したり、日課の散歩で挨拶をするなどして交流を図っている。	普段から積極的に近隣とのコミュニケーションが図られ、地域住民からの協力が得やすい関係が築かれている。地域の神社の祭りに参加したり、散歩の際に近隣住民と言葉を交わす等の交流が頻繁に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター講座を開催し、認知症に対する理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ごとにホームの取り組みや今後の活動予定を報告している。サービスの向上を図るため、参加者には率直な意見をいただき、より良いサービス提供に努めている。	参加者から率直な意見をいただける機会として活用されている。意見を取り入れ、外出する機会を増やしたり、後は年間予定をたてて開催日をあらかじめ設定することなどが検討され運営やサービスの向上に活かす努力をされている。	開催回数は諸般の事情で未達成となっているため、省令基準(2ヶ月に1回)の達成に向けて年間計画に沿った開催をし、事業所に対しての理解を深める場として定期的に活用されることが望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	空床情報や入居問い合わせなど、密に連絡を取り合っている。	日頃からの相談や働きかけにより、市担当者との相互関係は良好なものとなっており入居の受け入れ相談も行われている。また、空室状況の連絡をするなど情報の共有がなされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が正しく理解している。しかし、交通量の多い道路に面していること、また、玄関部分が普段活動している場所から死角となっているため、夕方以降は施錠を行なっている。	身体拘束をしないことが前提としての介護が定着している。さらに職員間の意識の統一を図り、また家族の理解も深めるために個別の事例ごとに身体拘束をしないケアの工夫が話し合われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時や更衣時などの全身観察が出来る際には、必ずチェックを行ない発生防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加する機会を設ける努力はしているが、現状では行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時及び改定時にはきちんと説明を行ない、その場で疑問点を解消出来るように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設けているほか、面会時や電話連絡の際に、ご意見・ご要望を確認している。	利用者、家族と普段からのコミュニケーションを大切にされている。定期的に家族意見を聴き取る機会を設けたり、利用者と一緒に会話をしている時間を意識的につくるなど工夫がされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフミーティングでその機会を設けている。また、随時、意見を吸い上げるようにし、反映出来るよう努めている。	定期のミーティングや振り返りシートの活用を充実させることで細やかな意見や提案が迅速に現場に反映されている。個別の相談事も気兼ねすることなく代表者に伝えることができる環境が整えられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	決算賞与の際に、自己評価・リーダー面接などの評価を考慮して反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加してもらったり、疑問点や不安点などをミーティング議題にしたりして、全員でレベルアップ出来るよう努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加してもらい、ネットワーク作りや交流出来る機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査時に、現状困っていることを把握し、安心して利用していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査時に、現状困っていることを把握し、安心して利用していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査時に、現状困っていることを把握し、安心して利用していただけるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の能力に合わせ、出来ることをしていただき役割を持っていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人が快適な生活を営むことの出来るよう、ご家族にもご協力賜っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関係が途切れることのないよう、面会などに来所していただいている。	入居後も家族や友人が継続して訪問できるように働きかけがされている。また家族と出身地へ出かける、自宅の片付けにいく、友人とドライブにいくなど関係継続の支援がされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの関係性をきちんと把握し、共に支え合えることの出来るよう、食事席や外出メンバーを工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も電話連絡や面会などを行ない、フォローアップに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人を中心として、希望や意向に添えるよう努めている。	利用者ごとの想いを受けとめることを目標とした支援が行なわれ、一人ひとりと向き合う時間とすることで意向が把握されている。家族から「安心して預けておける」との言葉をいただけていることから、本人本位の支援が伝わっていることが伺える。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査や各サマリーなどを通して把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護記録や申し送りを通じて、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスで具体的な課題と解決策を話し合い、基本対応表に反映している。	利用者、家族、かかりつけ医、看護師、介護職員等から総合的に把握された情報をもとに定期的に話し合いの場が設けられている。職員全体でカンファレンスが行われ、基本対応表を見直すことで実践状況が評価されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段と違うことは特に注意し、介護記録に残し課題解決に役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所中であっても、様々なサービスが利用可能か否か、随時、問い合わせを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	可能な範囲で音楽会などに参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関と信頼関係を築き、往診時はもちろん、緊急時などは電話連絡で指示・相談出来る体制を整えている。	利用者の健康状態や疾病に応じて、適切なかかりつけ医を選択できるように情報提供がされている。受診時には普段の状態を適切に伝えられるように支援され、家族との情報共有にも努められている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護時に、医療的疑問点やご本人の状態相談を行ない、適切に診療してもらえよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	具体的な退院日時を相談したり、面会時に状態把握を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	年齢や身体状態などから、重度化が予想される入居者さんについては、早い段階からご家族と話し合いの機会を設け、都度、希望を聴くようにしている。	事業所の取り組みについては事前に説明がされ理解していただいている。重度化に伴う様々な問題に関しては、その都度、本人・家族等と共に職員全体で話し合いながら方針が共有され支援に取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応や連絡経路の揭示を行っている。今後、研修などを利用して実践力の向上に努めたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し努力している。地域との協力体制については、進展していない。	定期的な避難訓練では、職員各自の役割を確認することで迅速な行動ができるように訓練をされている。対応がスムーズに出来るように2か月に1回の避難訓練が計画され繰り返しおこなう工夫がされている。	災害は予測不可能なことと、職員だけの避難誘導には限界があると想定されることから、地域住民の協力者の確保と合同訓練の実施を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各人の性格や生活歴を把握し、方言などを交えて一人ひとりに合った声かけを行っている。	対応方法に関しては研修やカンファレンスで話し合わせ、常に改善できることはないか検討されている。丁寧な対応が浸透し職員全体で共通理解されており、実際のケアを行う際の基本として確立されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で決め付けてしまうのではなく、ご本人が最終決定出来るような声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースを崩すことのないよう、無理強いしないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	口紅や化粧品などを一緒に買いに出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の能力に合わせて、包丁を使用した調理からテーブル拭きまで一緒に行なっている。	利用者の個々の力や希望に合わせて食器洗い・テーブル拭きなどの後片付けが職員と共に行われている。また、季節や記念行事にあわせて行事食や外食などが楽しめる企画が提案され、普段の献立は食べたい気持ちを引き出すようなひと工夫がされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは管理栄養士(代表者)の献立で、摂取量や水分量はその都度、記録することで支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず洗面所や食事席など、その方の状態で出来る場所で口腔ケアにあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間やパターンの把握に努め、快適に排泄していただけるようケアにあっている。	自分で出来る部分を活かすために、過剰な介護は行わないように支援をされている。そのため、立位を保持する力や尿意を適切に感じる力を維持できている事例が多くある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的な散歩や水分摂取量の把握、食物繊維を多く含む食物摂取や内服薬の副作用理解に努め、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	生活サイクルを整えるため、入浴日を決めてはいるが、好きな時間やタイミングで入浴していただけるよう努めている。	長湯を希望する、入浴を嫌がる等そのときの気持ちを汲んで、その人にあつた声のかけ方や対応方法が工夫されている。季節による温度調整や入浴補助具を活用し不快や負担を感じないように個別に支援がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温調整やその日の体調を見極め、休息・就寝していただけるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局からの薬説明書を記録に綴じ、副作用や効能について理解するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各個人の能力に合わせ、外出援助などを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日、外気を感じることを出来るよう、散歩の支援を行っている。	季節の移り変わりを感じ、気分転換が図れるように外出が企画されている。出かける機会を確保しやすくするため少人数での外出を検討されたり、家族の協力を得て個別の外出支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の状態によるが、所持することで精神的満足感を味わっていただけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話には代わっていただいたり、手紙が届く入居者さんもいる。また、来年からは入居者さんからご家族への年賀状作成を予定している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にネームプレートを貼ったり、室温をごまめに調整したりして、心地良く過ごしていただけるよう努めている。	利用者が気持ち良く過ごせるように、掃除や整理整頓に気が配られており、清潔な共用空間づくりがされている。トイレの表示をわかりやすくしたり、利用者の目線に合わせたレイアウトになるように配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下に、数人掛けや一人用のソファなどを置き、思い思いに過ごせる空間作りを行なっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険のない範囲で馴染みの物を持ってきていただき、ご本人の部屋に近づける努力をしている。	それぞれの利用者の生活スタイルやこだわりを尊重し本人が過ごしやすいことを重視した、そのひとらしい居室づくりが支援されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状態の重くなってきている入居者さんの状況に合わせてしまっている。		

(別紙4(2))

事業所名:グループホーム明日葉

目標達成計画

作成日:平成 28年 5月 1日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	定期的な運営推進会議を開催することが出来ていない。	2ヶ月に1度の、定期的な運営推進会議を開催する。	年度初めに、開催に関する年間スケジュールを作成し、定期的に開催していく。	12ヶ月
2	35	地域の一員として、地域ぐるみでの災害対策が不十分である。	地域の一員として、災害対策に関わることができるようにする。	地域行事等に積極的に参加し、地域との信頼関係をより強いものとするとともに、区長・民生委員などの協力を得ながら、合同の避難訓練を実施する。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。